音読みと訓読みの区別まとめ

① 基本的にはこう考えよう

(1) **それだけで意味の分かる読み方　▼訓読み**

(2) **それだけでは意味の分からない読み方　▼音読み**

② 鉄板パターンを覚えておこう

(1) **送りがなを必要とする読み方　▼訓読み**

(2) **読み方が4字以上　▼訓読み**

（逆をいうと音読みの読み方は必ず3字以下）

(3) **濁音やラ行で始まる読み方　▼音読み**

③ わりと多い「読みが二拍」の場合

(1) **小さい「ゃゅょ」（拗音）をふくむ読み方▼音読み**

(2) **二拍目（末尾）が「ウンチクキツイ」　▼音読み**

(3) **二拍目（末尾）が「ウンチクキツイ」以外▼訓読み**

①についてもっとくわしく　漢字辞典での表記

・音読み＝中国語　▼　外国語　▼　カタカナ

・訓読み＝日本語　▼　ひらがな

②についてもっとくわしく

(1)「送りがな」は、日本語として「意味が分かる」ように添えられている文字ですから、送りがなを必要とする読み方は「訓読み」ということになります。

【例外】「接する」「屈する」「生じる」のように「～する・～じる」の「～」部分は音読みになります。

(2)「承る」や「著しい」のように送りがながついているのはもちろんですが、送りがながついていなくても、**読み方が4字以上の場合は訓読み**になります。

例・「志」「公」「詔」「私」など

逆にいうと、**「音読みの読み方は必ず3字以下」**です。

(3)**「濁音やラ行（ラリルレロ）で始まる読み方は音読み」**です。「額に入れて飾る」の「額（ガク）」などは、それだけで意味が分かるので訓読みと間違えそうですが、濁音はじまりの読みなので音読みになります。

「合」「残」「字」などもすべて音読みです。

【例外】「路」「場」これらは濁音なのに訓読みです。

③についてもっとくわしく

まず、「二拍」というのは、必ずしも「二文字」とは一致しないことを知っておきましょう。小さい「ゃゅょ」（拗音）は、それ単独で一拍とは数えないのです。たとえば、「きょう」というのは「きょ・う」というように二拍と数えます。

小さな「っ」（促音）は「しゃっくり」▼「しゃ・っ・く・り」のように一拍と数えてください。

二拍の読み方で、二拍目、つまり末尾が「ウンチクキツイ」だったら、音読みである可能性が高いです。

（例）空（クウ）・円（エン）・日（ニチ）・悪（アク）・席（セキ）

達（タツ）・愛（アイ）

【例外】二拍の読みで、二拍目が「うんちくきつい」なのに訓読み

秋・息・粋・幾・市・五・内・沖・奥・貝・柿・神・口・靴・恋

先・隙・背・関・滝・竜・月・土・時・栃・問・夏・何・新・軒・後

灰・蜂・初・縁・舞・牧・巻・町・街・松・道・餅・夕・雪・宵・八

脇・枠

例外が多めですが、**二拍の読み方で音読みになるとしたら、二拍目は「ウンチクキツイ」の七種類しかない**ことは間違いないので、

・二拍の読みで二拍目が「ウンチクキツイ」なら音読みの可能性大（訓読みもありえる）

・二拍の読みで二拍目が「ウンチクキツイ」でないなら訓読み

と覚えておきましょう。

★よくでる間違えやすい音読み

本（ホン）　天（テン）　番（バン）　客（キャク）　図（ズ）

陸（リク）　王（オウ）　台（ダイ）　曲（キョク）　字（ジ）

役（ヤク）　肉（ニク）　駅（エキ）　愛（アイ）　絵（エ）

★よくでる間違えやすい訓読み

原（はら）　相（あい）　身（み）　場（ば）　屋（や）

関（せき）　夕（ゆう）　路（じ）　野（の）　荷（に）

さらにくわしく https://3q-courage.co.jp/essay/2624.html